

# I 第8回カツオ・マグロ漁業に関する研究座談会

主催 水産海洋研究会

日時 昭和43年12月6日午後1時より  
会場 静岡県焼津漁業協同組合会議室  
コンピーナー 井上元男(東海大)

## 発表題名及び話題提供者

- |                           |             |
|---------------------------|-------------|
| 1. カツオ・マグロ漁業と水中テレビの活用     | 岩下光男(東海大)   |
| 2. カツオ・マグロ漁業に対する漁群探知機の応用  | 西村実(東海大)    |
| 3. 魚群探知機によるマグロ類の生態研究      | 山中一(遠洋水研)   |
| 4. 最近の焼津マグロ漁船の問題点         | 秋山鋭治郎(焼津漁協) |
| 5. ミナミマグロの分布南限における海洋構造    | 奈須敬二(遠洋水研)  |
| 6. 亜熱帯反流(第二の黒潮)とカツオ・マグロ漁場 | 宇田道隆(東海大)   |
| 7. 質疑応答                   |             |
| 8. 感想                     | 山中一郎(遠洋水研)  |

## 1. カツオ、マグロ漁業と水中テレビの活用

岩下光男(東海大学海洋学部)

東海大学海洋学部、海洋調査実習船、東海大学丸Ⅱ世に考案設置された本装置は、海洋の調査研究を目的とする深海用水中テレビジョン装置を軸として、その記録解析及び学生に対する教育実習に供する総合的な船内テレビジョン・システムとしてまとめられたものである。

水中テレビジョンは、本来原理的には陸上用のI T Vカメラを水密ケースに集納したものであるが、実用性という面から種々の独特の設計が採用されなければならない。それは第1に水中の状況は空気中のそれと大いに異なること、第2には使用される環境が、不便な海上で船舶の中に限られるためである。第3に、船舶の外圍温度、振動、動揺、防水性、塩害、照明等いずれにしても最悪の条件で使用される。以下水中テレビジョンに具備すべき条件と、本テレビカメラの使用法特徴、使用上の問題について概説したい。

### (1) 撮像管について

一般に水中テレビはもちろんのことI T Vカメラの感度及び画質を決定する最も大きな要素である。テレビジョン撮像管には現在よく知られているように、イメージオルシコン型とビジコン形の二種があり、近來これに新しくイメージオルシコンをビジコン化したと云われて登場したフ